

一般から情報募集した種に関するコメント

平成 21 年度と平成 22 年度に、都民の皆様からホームページ等を通じて、下記の種について情報を募集しました。情報をご提供いただいた皆様、誠にありがとうございました。

下記に、お寄せいただいた情報に対するコメントを記しました。

【植物】

◆シマテンナンショウ

シマテンナンショウは御蔵島と青ヶ島からそれぞれ1件ずつの情報が寄せられた。御蔵島からは、島のあちこちで見られ数も多いと報告され、健全な状態で生育していることがうかがわれた。各島の調査協力者の方々からの情報を解析した結果も絶滅の危険性を示すことはなく、今回のレッドリストには、幸い本種は掲載されなかった。

◆センブリの仲間

形に変異があり分類が難しい場合があるため、今回はセンブリのほかにイヌセンブリとソナレセンブリも含め情報提供をお願いした。結果として、大島、御蔵島からセンブリの情報が、新島からソナレセンブリの情報がそれぞれ1件ずつ寄せられたが、いずれも詳しい生育状況や増減傾向までは明らかではなかった。各島の調査協力者の方々からの情報を解析した結果、センブリは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、ソナレセンブリは絶滅危惧ⅠB類(EN)という厳しい評価となった。特にソナレセンブリは生育地が限られるうえに、減少傾向を示す場所も多く、今後それらの場所での動向が心配される。なお、イヌセンブリの情報は寄せられなかった。

◆オガサワラクチナシ

オガサワラクチナシについては 14 件の情報が寄せられた。父島列島から 6 件、母島列島から 8 件の情報があり、なかには多数確認したという報告もあった。しかし、小笠原諸島の調査協力者の方々からの情報を総合的に解析した結果は、全体としてある程度の個体数は維持されているものの減少傾向にあり、最終的には絶滅危惧Ⅱ類(VU)という評価となった。オガサワラクチナシは父島列島と母島列島で葉の形質などに違いがあり、その点からもそれぞれの島において群落が維持されることが重要である。

【哺乳類】

◆イタチ

伊豆諸島でイタチの生息が知られているすべての島(大島、利島、三宅島、八丈島、青ヶ島)から生息情報が寄せられた。このうち、大島のものは在来種とされているが、他の島のものはネズミ駆除のために導入されたものである。大島でも個体数は多く、駆除の対象となっており、絶滅のおそれは低い。イタチのいない島からの情報はなかった。

◆小型コウモリ類

寄せられた情報は御蔵島からのものの1件のみであった。この島で生息しているとされる種はコキクガシラコウモリだけであることから、寄せられた情報はおそらく本種であると思われる。御蔵島では 10 年ほど前まで、集落近くの洞穴(防空壕)とその周辺でコウモリが観察されていたが、この洞穴がなくなってからは確実な生息記録がないので、貴重な情報である。今後、御蔵島での小

型コウモリ類情報が得られることが強く期待される。

◆オガサワラオオコモリ

住民がいる島で本種が知られているのは父島と母島であるが、情報は父島からだけで、これは母島にはごく少数しか生息しないためと思われる。父島では「増えているように思われる」という感想が複数寄せられていて、これは最新の調査結果とも一致しており、明るいニュースである。ただし、もともと個体数がきわめて少なく、絶滅のおそれが高いので、今後とも注意深く推移を見守る必要がある。

【鳥類】

◆アカコッコ

アカコッコは、三宅島、利島、御蔵島、青ヶ島の4島から計6件の情報が寄せられた。樹林地での目撃の他、林道沿いの地上部で採餌する様子が観察された。上記の4島ではいずれの島でも少数の群れや複数回の観察が報告されており、分布域でありながら報告のなかった他島に比べて個体数が多いことが示唆される。

◆アカガシラカラスバト

アカガシラカラスバトは、有人島のみでなく、無人島からの情報も寄せられた。本種は、季節によって島間を移動することがわかっているが、その詳細な様相はわかっていない。寄せられた情報には、無人島の弟島や向島、妹島などでの記録も含まれており、繁殖記録のある場所だけでなく、周辺属島の保全の重要性がうかがわれる。本亜種の保全のため、これまで十分にわかっていない無人島での生息状況を明らかにする必要がある。

【爬虫類】

◆八丈島、三宅島、青ヶ島のオカダトカゲ

八丈島、三宅島、青ヶ島のオカダトカゲは、外来種イタチの被害等により生息数が激減した。現在これらの地域でオカダトカゲを見かける機会は少なくなっているが、今回寄せられた情報からは、オカダトカゲの生息状況について重要な情報を得ることができた。

◆オガサワラトカゲ

オガサワラトカゲについては、父島と母島に定着している外来種グリーンアノール等の影響が心配されている。今回寄せられた情報には、グリーンアノールの影響が既に強くみられる父島、同様の影響の発生が心配される母島、未侵入の属島が含まれ、それぞれにおけるオガサワラトカゲの分布情報が示す貴重な記録となった。本種を発見することは難しくなっているはずであるが、皆さんの自然に対する関心が高いことがうかがえた。

【魚類】

◆オニイトマキエイ

今回の情報募集では、オニイトマキエイの情報は寄せられなかった。本種はフィッシュウォッチングの対象として人気があり、比較的情報が集まることを期待していたが、観察可能な出現地点が限定的であることが、情報が得られなかった一因と思われる。

◆タマカイ

今回の情報募集では、タマカイの情報は寄せられなかった。本種は既に個体数が極端に減少してしまっていると考えられ、今回の結果からもそのことがうかがえる。

◆ミズタマヤッコ

今回の情報募集では、ミズタマヤッコの情報は寄せられなかった。本種はもともと個体数が少ないことに加え、水深 30m 以深とやや深い場所に生息していることも情報が集まらなかった一因と考えられる。

◆オビシメ

オビシメについては 2 件の情報が寄せられた。今回情報を募集した魚類は全て海域に生息する種であるが、この中で本種だけが情報を得られた。本種は小笠原海域のみに生息する固有種であるが、生息数が比較的多く、沿岸のごく浅い場所にも生息しており、ビーチでの観察も可能である。情報の集まりにくい海水魚の中で本種の情報だけが得られたのも、そのことに起因すると思われる。

【昆虫類】

◆ヒラタクワガタ(オス)

ヒラタクワガタ(オス)は大島、利島、新島、式根島の 4 島から情報が寄せられた。いずれの島においても、夏期に海岸近くや公園も含めた樹林環境下に広く見つかるようであり、健全に生息していることがうかがえる。今回は神津島～八丈島の情報はなかったが、御蔵島を除く各島に記録がある。

◆オナガミズアオ

オナガミズアオは、大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島の 7 島から、採集確認の情報が寄せられた。本種はヤシバシ林に生息する蛾である。多くの島で確認され、生息個体数の減少はないと推定される。三宅島では火山活動のため、多くの木が枯死し、減少が危惧されたが、影響は少ないようなので安心できた。蛾類は、チョウ類と比較すると情報が少ないので、今後も関心を寄せていただけると幸いである。

◆カラスアゲハ

カラスアゲハは、東京都の島しょ部では、伊豆諸島の大島～八丈島に至る有人島のすべてから記録されている種で、今回の募集でもそれらすべての島からの情報が寄せられた。どの島においても生息状況は安定しており、現状として絶滅の危機にはないことがうかがえるが、台風など、気象条件の影響によって個体数の増減があるようである。火山活動の影響が心配された三宅島においても、安定して生息しているようである。春型の成虫は本土部では 5 月に入ってから多く発生するが、伊豆諸島では 4 月に多く見られるようであり、温暖な地域であることがうかがえる。

◆オガサワラゼミ

今回の情報募集では、父島、西島、母島、平島からの情報が寄せられた。オガサワラゼミは、かつては非常に多数が見られた種類であるが、グリーンアノールの捕食圧によってとくに父島で激減し、母島でも減少が顕著になっている。アノールに捕食されるセミの悲鳴が今では、秋の名物のようになってしまっているのは、悲しい限りである。母島ではこの 5 年間でみただけでも、かつて多数見られた堺ヶ岳などで全く鳴き声が聞かれなくなり、衰退が進んでいることが心配される。

◆オガサワラタマムシ

オガサワラタマムシは、大型の甲虫であるためグリーンアノールが襲うことはほとんどないと考えられ、父島で今でも見られる数少ない昼行性の固有甲虫のひとつである。幼虫は、ムニンエノキの大木の立ち枯れや倒木を食べる。成虫は、ムニンエノキの葉上や周辺を飛び回っており、メタリック・グリーンに輝く体はよく目立つ。

過去の記録は、弟島、兄島、父島、母島、向島に限られ、今回も、父島・母島から情報が寄せられた。最近、枯死するムニンエノキがよく見られるので、今後の推移に注意が必要である。

【クモ類】

◆キシノウエタテグモ

キシノウエタテグモは、地中に入り口に扉のある管状の住居を作って棲むクモで、扉は地面と紛らわしく、非常に見つけにくい種である。情報を寄せた方の相当な時間のフィールドワークの結果と思われ、大島、三宅島、八丈島における分布が確認されたことは価値がある。

◆ジグモ

ジグモは、空中飛行することが確認されており、分布も広く、植林地などでもみられるため、同じ地中性でもキシノウエタテグモよりは環境変化への適応能力は高いと考えられ、これまで絶滅の恐れがある野生生物としてはほとんど取り上げられなかった。しかし、本土部では市街地で明らかに減少傾向が見られるので、注目すべき種として情報提供を呼びかけた。島しょ部でも同様に注目していたところ、大島、三宅島、八丈島での生息の情報が寄せられたことは意義がある。今後も生息状況の推移を見守りたい。

◆エダイボグモ

エダイボグモについては、小笠原諸島固有と考えられ、保護上きわめて重要と考えられる種で、環境省のレッドリストではDDと判定されている。母島および兄島から記録があるが、採集例は少なく、最近では生息が確認されていない。評価者による母島の調査(2010)では発見できず、一般からの記録が期待されたが、情報の提供はなかった。

【甲殻類】

◆ムラサキオカヤドカリ

父島(宮の浜、清瀬、ブタ海岸、初寝浦、千尋岩へのルート上)、母島(静沢)、兄島、南島、神津島(長浜海岸)での目撃例9件が寄せられた。写真が添付されている例が多く、いずれも信用に値する記録である。目撃の日付も記されているが、宮の浜(父島)では毎年観察されること、夏には小型個体が多いこと、また、6月には海岸で抱卵雌が観察されることなどの情報も寄せられた。島名が不明の例も小笠原在住の方からの情報であり、父島である可能性が高い。本種を含めてオカヤドカリ類は全種が国の天然記念物に指定されているが、ムラサキオカヤドカリは小笠原諸島では比較的個体数が多いと推定されることから留意種とした。

◆オカヤドカリ

寄せられた目撃は2例である。島名の記録や日付などの情報はないが、父島と母島である可能性が高い。写真もないので、本種であるのか、近縁のナキオカヤドカリであるのか確かな判定が

できない。いずれの種か確定するためには、右はさみ脚の掌部に発音のための顆粒列があるかないかを確認する必要がある。オカヤドカリ類は全種が国の天然記念物に指定されているが、比較的小型で、地味な色のオカヤドカリとナキオカヤドカリはあまり注目されないため生息、分布情報が不足している。

【貝類】

◆イズマイマイ

新島から情報が寄せられた。もしかすると、他種との混同があるのかもしれないが、島内各地で見られ、増加傾向にあるとの報告は、カタツムリ全般で考えても嬉しいものである。この種は未だ絶滅の危機にはないと判断し、留意種とした。同じイズマイマイでも、新島・利島と三宅島・御蔵島では殻の大きさや色合いが違っている。地域ごとのカタツムリの違いなどにも関心を寄せて頂けると幸いである。

◆カサガイ

カサガイは小笠原諸島の磯にのみすむ大型になる傘型の貝で、現生の海産貝類としては珍しい国の天然記念物である。新島と小笠原の父島・母島から合計8件の情報が寄せられた。新島のものは、カサガイに極めて良く似たベッコウガサという別種だと思われる。カサガイでは、集落近くからの報告はなく、むしろ普段人の行かない地点で確認され、減少したと感じられた地点もあった。このような観察も加味して、カサガイを留意種とした。今後も、本種の増減に関心を持って頂ければ幸いである。